

令和元年度 第1回 子ども権利委員会会議録

I. 開催日時：令和元年6月11日（火）15：00～16：30

II. 場 所：名張市役所 2階 庁議室

III. 出席者：子ども権利委員会 委員長、副委員長、委員7名

事務局：福祉子ども部長、子ども家庭室長、保育幼稚園室長、保育幼稚園室員、子ども家庭室員2名、子ども相談員

IV. 内 容：1. 新委員への委嘱状交付

2. 議事

(1) 平成30年度ばりっ子すくすく計画（第4次）関連事業実績報告

(2) ばりっ子すくすく計画（第5次）アンケートについて

(3) 第2期名張市子ども・子育て支援事業計画（ばりっ子すくすく計画第4章）策定の進捗状況について

【質疑・意見交換】（委：委員長 ○：委員 ⇒：事務局）

(1) 平成30年度ばりっ子すくすく計画（第4次）関連事業実績報告

*事務局説明 （省略）

委 ありがとうございます。早速ですが質問等ございましたらどうぞ。

○ 子ども条例に関する研修会で、放課後児童クラブへ出向いたとありますが、市内各小学校の放課後児童クラブでしょうか。

⇒ 桔梗が丘東小学校の放課後児童クラブから、指導員向けにお話をしていただけないかという要請がありまして、研修をさせていただきました。

○ 今後もそういうことをしていくということはありませんか。

⇒ また、お声掛けいただけるように指導員さんが集まる場で、発言してみるとかは考えていますが、今のところはありません。

○ 対象は指導員さんですか。

⇒ そうです。もし、子どもさん向けにということでしたら、そちらも対応させていただきます。

委 他にありませんか。

講演会がありましたが、2回とも出席させていただきました。参加されているみなさんに、名張市子ども条例のことを知っていますかと、毎回質問させて

もらっています。参加されている対象の方々が違うので、一概には言えませんが、いろんなところで、啓発活動をしていけば良いかなと思います。警察や子どもに関わる団体の方々が、それぞれの企業、団体に持ち帰っていただいたときに「名張には子ども条例があるよ」と発信していただけたらと思いますので、こういう講演会は、どんどん開催していただけたらありがたいと思っています。

あと、小学校で人権と子ども条例の授業を行ったとありますが、どんなことを話したのか、聞かせていただけませんか。

⇒ 学校での授業に先立ち、クラス内で課題があり、取り上げるべき問題として話に組み込んでいこうとか、先生と打ち合わせをして授業に臨んでいます。

45分間の授業の前半は、子ども条例の成り立ちであったり、仕組みであったり、「子どもの皆さんにはこんな権利があるんだよ」ということを話し、後半は、障害を持つ人から自分自身のことを聞かせてもらうことは、子どもたちにとって貴重な場面である、という先生からのご意見もあり、自身の障害の話をすることもあります。子ども条例から、いろんな人権のテーマに、考えてもらえるようにお話をさせてもらっています。

〔委〕 ありがとうございます。他にはございませんか。

○ ばりっ子会議の参加者数ですが、せつかくの12月1日の市政への提言の時、参加者数が7名と少なかったのは、なにか背景があったのでしょうか。

⇒ 教育フォーラムでの市政への提言の場面は、普段のばりっ子会議の活動とは違ったイレギュラーな活動で、この日は来られる人は来てくださいということで集まった数となっています。

〔委〕 市政への提言は、初期の段階では、桔梗が丘駅前の通学路を整えて欲しいという提言があったんです。今回久しぶりに提言がでてきて、引き続き考えていってくれたらいいなと思っています。

ほかにありませんか。では、実績報告はこれで終わります。

(2) ばりっ子すくすく計画（第5次）アンケートについて

＊事務局説明 （省略）

〔委〕 何かご意見はございませんか。

⇒ アンケートの実施期間が、5月の連休明けからというのは、この時期ならば可能だろうというご意見をいただいたことがあります。ご多忙とはおもいますが、校長会代表の先生、いかがでしょうか。

○ 学校によって全然違うのですが、この時期くらいでいいと思います。

⇒ ありがとうございます。

〔委〕 アンケートの回収状況で、小学生は90%ですが、一番知ってほしい教職員、幼稚園職員の回収率が非常に低いというのが残念に思います。市職員は95%でしたね。

⇒ 前回、市職員の結果が低かったので、回答が遅いところは催促をかけたりして働きかけをしました。

〔委〕 小学2年生、小学5年生、中学2年生と3年ごとに、同じ子どもたちが答えてくれるようになっていきます。小学5年生で名張市に子ども条例があるのを知っていますかという質問をしているのですが、「知っている」の回答数がなかなか上がってこない。

小学5年生から中学2年生になったとき、同じ質問で1ポイント弱しか上がっていない。これはやっぱり、我々の力不足ではないかと感じています。

⇒ 計画は令和2年に見直しがあるのですが、子ども条例の周知に小学5年生と中学2年生の30%を目指すとしています。それに向けての出前授業を今年は、全部の小学校にお願いしていこうと思います。

〔委〕 昨年も言いましたが、日常的に目にするよう教室に子ども条例啓発の掲示物を置いてもらうというのはどうでしょうか、校長先生。

○ 教室は掲示物がいろいろあると落ち着かない子どもがいるので、あまり前に貼らないようにしています。廊下とか、掲示板なら貼れますね。

〔委〕 また、ご検討をお願いいたします。他はありませんか。

○ このアンケートの結果は、それぞれのところへ報告されていますか。

⇒ はい、アンケートさせていただいた組織に結果を配っています。

○ 子どもさんには報告されていますか。なぜかという、自分が周りの家族から大切にされていない、自分のことが好きと思えない、と感じている子どもが一定数いる。子どもさんの思いをもう少し受け止めてあげたい。

⇒ 行政でもこの結果を施策にフィードバックし、家庭教育の分野に相談をかけるといった形では動けると思います。

○ 今おっしゃったように、施策に反映していただくのは当然のことなんですが、せっかくこのアンケートの結果が出ているので、市民の皆さん全部に見ていただいて、解っていただく手立てはないかなと考えました。

⇒ 名張市では基本計画の主だった項目で、市民の意識調査を毎年することになっており、公表させていただいております。このアンケートもそのようにできるか、検討させていただきたいです。広報なり、ホームページなりで公表し施策に反映させていきたいと思っています。

〔委〕 アンケートの中の保護者の方からの意見で、「名張市はいつも提唱するだけで実行しているとは実感できない。アンケートを実施したという形がほしい

だけで何の参考にもしてくれないと思っている」とか、中学2年生の子どもからの「これ（アンケート）をしたことで満足することが無駄」とか、こういった意見が出ないようにするにはどうしたらいいか、みなさんで考えていかないといけないと思います。また、「子どもの権利を大切にするなら、子どもの意見を聞かずに学校の統廃合をすすめるのはいかがなものかと思います」という意見もあり、これをどのように返していくのかが一番の課題になってくると思います。

- 私は、名張市ではないですが小学生の時、2年おきにアンケートをとってしました。なんだかわからないまま、受け身でやっていましたし、アンケートの結果が、子どもたちに返ってくることはなかったです。何のために、授業の時間を削って、これをやっていたんだろうという思いがありました。回収するときも、だれが書いたかわかるから、正直に書いていいのかなとか、そんなことも思いながらアンケートを受けていました。ですので、なぜアンケートをとるのかということ、子どもたちに話してもらえたらなと個人的に思います。

委 ありがとうございます。

(3) 第2期名張市子ども・子育て支援事業計画（ばりっ子すくすく計画第4章）策定の進捗状況について

＊事務局説明 （省略）

委 ありがとうございます。質問はございませんか。後日、直接質問してもよろしいですか。

⇒ 大丈夫です。

⇒ ひとつ報告とお願いがあります。ばりっ子会議から市政への提言のプロジェクトですが、昨年の実績報告の中でもありましたように、近年途絶えていましたが、提言の提出ができました。これは、ばりっ子会議の参加者が40名となり、子どもたちの意見を引き出すために、何かいい方法はないかと考えていたところ、子ども権利救済委員会委員である皇學館大学教育学部の山本准教授から、うちの大学生が手伝いましょうかとお提案いただきました。去年は学生さんに常時2名ほど来ていただき、子ども達と世代が近いという事で、上手く意見を引き出してくれ、提言という形でまとめることができました。これは、山本准教授が大学側と交渉して予算を獲得し、進めることができたのですが、今年度はそれができないという事でした。しかし、皇學館大学は昨年度までの5年間で、地域の抱える課題に大学の知恵と学生の人材で地域に協力するという事業に取り組んでいて、大学としては今後も続けていきたいとのこ

とです。昨年度までは、補助金の枠があったので伊勢志摩地域に限られていたのですが、今年度は、そこにこだわる必要もないので名張市も参加してくださいとお声掛けいただきました。ただ、大学側に学生を派遣する費用はないので、交通費は名張市が負担することになります。そして、6月16日の第1回ばりっ子会議から2名の学生さんが参加していただけることになりました。

また、ばりっ子会議の参加者が、昨年度と大きく違うところは、中学生が4人増え、小学校高学年も昨年より多くなっています。ばりっ子会議から市政への提言がなされたと報道されたことで、興味をもった子がいるのかなと思っています。そういったところも大事にし、皇學館大学の学生の協力を得ながら、今年も提言を拾い出せるように進めていきたいと思っています。

〔委〕 質問ありますか。

○ 皇學館大学の学生の交通費は今後メンバーが増えても出るのですか。

⇒ もちろんです。皇學館大学は伊勢市にあるので、そこからだとかなり交通費がかかってしまいますので、募集要件として伊賀地域にお住いの学生さんにつけさせていただいて、交通費を抑えようと思っていたのですが、「交通費が出なくても、友達の家泊まり込んでも行きたい」という声があり、その心意気に打たれて、もう交通費出しましょうとなりました。

〔委〕 他にはないでしょうか。なければ終わります。

⇒ ありがとうございます。また次回は夏頃に予定しております。よろしくお願いいたします。